

<先週の説教から>

『詩編 62 — 私の魂は沈黙して神に向かう!』

武田真治 牧師

詩編 62:1~13 フィリピの手紙 4:6~7

二か月前に天に召された坂田雅雄先生が、この詩編62の2節「わたしの魂は沈黙して、ただ神に向かう。神にわたしの救いはある」の言葉を元に、受難週早天祈祷会でお話をされた文章が『オリブの葉—449号』に掲載されています。

「この言葉は、自己中心ではなく絶対者の存在を知ることです。どんな知識にもまして大事なことは、本当の神様を知る、ということなのです。人間何か『怖いものがある』そして『畏怖する心がある』と言うことは、その人にとって大事なことはないかと思います。」と、まさに、この詩編のテーマは“だれを恐れて生きるのか?”と言い得ます。

この詩編の“祈り人”が置かれている状況は、4節に「お前たち(=敵)はいつまで人に襲いかかるのか。亡きものにしようとして一団となり、人を倒れる壁、崩れる石垣とし」です。具体的な圧迫の内容については書かれてありませんが、反対者たちからの排斥や攻撃により、今にも倒されそうな危うい状況に置かれていることが分かります。特に、圧迫者たちはこの祈り人に対して「(押し迫れば)倒れる壁、崩れる石垣」と見做しており、故に脅かしたり、恐れさせたり、精神的にも圧迫すれば、すぐにダメになるだろう、倒れるだろうと考えて、肉薄して来ている状態なのだとはいえます。

そういう状況に対して、祈り人は「神はわたしの岩、わたしの救い、砦の塔。わたしは動揺しない。」と自らの信仰を強く告白しています。これはまさに崩されそう、倒れてしまいそうな“自分”を意識しつつも、だからこそ、こんな私を“岩”となって支えてくれる神様、安全な逃げ場を与えてくださる神様が背後におられる、だから『私は動揺しない=彼らの脅しや圧迫には負けない、崩れないぞ』と信仰によって自らを鼓舞し、支え直している言葉なのです。

そしてこの後の言葉もまさに神様を信じ、この世の人の在り方に流されないで、神様に祈りながら生きる事の大事さが語られます。即ち「民よ、どのような時にも神に信頼し、御

前に心を注ぎ出せ。神はわたしたちの避けどころ。人の子らは空しいもの。人の子らは欺くもの。共に秤にかけても、息よりも軽い。暴力に依存するな。搾取を空しく誇るな。力が力を生むことに心を奪われるな。」(9~12節)です。

最後に、実はこの詩編の冒頭の言葉「わたしの魂は沈黙して、ただ神に向かう。」について、アウグスティヌスはその『詩編説教』の中で『通常、この言葉は自らが沈黙して神様に向かうと訳されているが、原文は“神様の沈黙の中でも、私は神に向かう”という意味が含まれている』ことを指摘しています。神様が何も自分に答えていただけない、道を示してくれない状況の中でも“腐らず、諦めず、その神様にのみ祈り、願い、讃美していく”信仰の姿勢を貫こうとしている言葉だと。この読み方はとても深いと私は思います。それが9節「どのような時にも神に信頼し」であると!

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 8月5日(水) 20:00
II. 8月6日(木) 10:30

聖書研究: ヨブ記

祈祷主題: 平和祈念集会を覚えて

担当者: (水) IK (木) HH

祈りに覚える人 TKさん TMさん

【教勢報告】

主日礼拝 男17 女49 計66

祈祷会 I. 男4 女3 計7 II. 男1 女7 計8

日曜学校 幼稚科2 小中科9 計11

ひつじ雲の会・7月27日(月) 男0 女2 計2

【次週主日礼拝】 8月9日(日)

聖書: ヨエル書 2:21~24

ルカによる福音書 9:39~43

説教: 「ルカ82 — いやしと問題の解決」

武田真治 牧師

讃美歌: 371(1)、32、444、419、442、

【次週当番表】 91(1)

司式: AS 長老 奏楽: KH 礼拝: SM 長老

献金: TS TM 受付: SM HH

会堂準備: IY OY KS NH

MH

看板: II 週報: YS お花:

【次週集会予定】

礼拝前: ・日曜学校 ・聖書輪読会 ・はこぶねルーム

礼拝後: ・平和祈念集会 ・壮年会(親睦食事会) ・ダビデ会

・8/8(土) 13:00~「日曜学校 WAKU わく・フェス」

67-31

週報

2026年度 教会標語

「神様に“望み”を持って、生きる!」

2026年 8月 2日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549